



すずかけの木

学校教育目標

- こころの豊かな子
- すすんで学ぶ子
- たくましい子

努力は裏切らない

校長 たかの あきひと 高野 明人

「暑さ寒さも彼岸まで」と言うように朝晩は涼しくなりました。しかし、昼間は夏のような日差しを感じる日もまだあります。10月は6年生の「修学旅行」や「すずかけ祭り」等の大きな行事があり、児童の活躍が楽しみです。特に22日(土)の「すずかけ祭り」は3年ぶりに保護者の皆様に公開いたします。児童も楽しみにしておりますので各クラスの出店に足を運んでいただければ幸いです。非公開ではありますが当日「すずかけの木樹齢100年を祝う会」も実施されます。(コロナの影響なしの条件付きです)



さて、校長室に校長箱根駅伝なる怪しい横断幕が掛かっているのをご存知でしょうか。珍物として来室者の方を戸惑わせていますが、北埼玉地区の現役退職校長で正月の箱根駅伝と同じコースを襷を繋ぎ走っているのです。大人の箱根駅伝ごっこではありません。真剣です。私は第3回から走るようになりました。その記念すべき第10回の大会が9月下旬の連休にあり、第1区大手町～鶴見まで21.5kmを走り襷を繋ぎました。タイムは学生の倍ですが、それでも夏の暑い時期に練習を怠ると走ることはできません。私はそのために、週に一度は20km以上走る、できるだけ毎日走る、その他筋トレや糖質制限に取り組んできました。マラソンは練習も本番も自分だけの孤独な戦いです。そして奇跡はありません。努力の分だけの結果がそのまま出ます。そのかわり、終わった後の達成感、苦しい練習の分も併せてなんとも言えない喜びとなって返ってきます。

「努力は裏切らない」毎日のチャレンジタイムや自主学習を頑張っている児童に伝えたい言葉です。ご来校の際には是非校長室にいらして横断幕をご覧ください。

震災は終わっていない



9月13日(火)南河原青少年育成会主催の教育講演会が開かれました。～3.11を学びに変える～誰もが「被災者」になり得る時代という演題で佐藤敏郎先生をお招きし、3年生以上の児童及び自治会の区長さんらが講演を聞きました。

佐藤先生は当時女川町立第一中学校に勤務されていたこと、6年生のお子さんをあの石巻市立大川小学校で亡くされているということでした。大川小学校は地震後3分で校庭避難が完了し、その後40分以上その場に待機していたそうです。そして津波が学校に到達する1分前に津波が来る方向に避難を始め被災したそうです。

被災の一番の原因は「裏山に逃げる」ということを決めていなかったことだそうです。今でも4名行方不明児童を保護者は捜していること、今は震災後ではなく次の震災前であることなど、心を揺さぶられるお話しでした。

転じて、本校も危機の際に臨機応変な対応では児童の命は守れないと痛感しました。佐藤先生が震災後、生徒に創らせた俳句、「逢いたくて、でも会えなくて、逢いたくて」「ありがとう、今度は私が、頑張るね」には、胸がつまりました。本校児童の聞く態度は立派で、先生が感心していました。コロナによる延期で2年越しの事業でしたが、渡辺青少年育成会長様のご尽力に感謝を申し上げます。